2)水稲もち優良品種候補「北有糯80号」

北見農業試験場　作物科

1.はじめに

現在、北海道のもち米生産の85%は道北および道東で集団栽培されており、基幹品種は「おんねもち」(29%)と「たんねもち」(68%)である。「おんねもち」は穂揃性が劣り、しかも割籾が多いために刈取適期幅が狭く、刈遅れると紅変米[1)]や着色粒米[2)]の発生が多くなり、品質面に問題がある。また、収量性も「たんねもち」より劣るので、「たんねもち」の作付けが増加しつつある。一方「たんねもち」は登熟期間が長く、成熟期が「おんねもち」より遅いので、これらの地帯では成苗移植[3)]での栽培が指導されているが、実際面では中苗移植4)栽培が行われることが多く、遅延型冷害を助長する危険性が大きい。
したがって、登熟性がよく、耐冷性の強いもち品種の育成が強く望まれていた。

2.育成経過

本系統は、良質、多収の「上育381号」(「たんねもち」)を母とし、登熟性のよい「おんねもち」を父として上川農業試験場で交配し、鹿児島県で世代促進を図ったF4種子を北見農試で譲りうけ、その後選抜固定を図ったものである。

3.特性の概要

本系統は、成熟期が「おんねもち」並で、「たんねもち」に比べ早く、障害型耐冷性は「おんねもち」、「たんねもち」より強い。割籾の発生は、「おんねもち」、「たんねもち」より少なく、紅変米の発生は「おんねもち」より少なく「たんねもち」並である。収量性と耐倒伏性は「おんねもち」より優る。白米白度は、「おんねもち」、「たんねもち」よりやや優る。食味は「おんねもち」にやや優る。

4.普及態度

主に道東、道北で栽培されている「おんねもち」、「たんねもち」の一部に替えて栽培することにより、もち米の良質安定生産に寄与する。

表1　「北育糯80号」の育成地における特性概要　(昭61年-63年の平均)

形質/品種名	早晩性		草型	出穂期(月・日)	成熟期(月・日)	登熟日数	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)	芒性	障害型耐冷性
	出穂期	成熟期									
北育糯80号	早の晩	早の晩	偏穂数	8.12	9.29	48	60	15.5	496	少・極短	強
おんねもち	早の晩	早の晩	偏穂数	8.10	9.29	50	58	15.0	574	少・や短	や強
たんねもち	早の晩	中の早	穂数	8.8	9.30	53	58	16.1	466	少・極短	や強

形質/品種名	耐到伏性	葉いもち病耐病性	穂いもち病耐病性	収量(kg/a)	千粒重(g)	玄米品質	検査等級	食味	アミログラム最高粘度B.U
北育糯80号	や強-強	中	中-や強	42.9	19.3	上下	2下	中上-上下	857
おんねもち	や強	中-や強	中-や強	40.6	19.0	上下	2下	中上	816
たんねもち	や強-強	や強	や強	45.0	19.0	上下	2中	中上-上下	841

表2　品質に関する調査

形質/品種名	割籾歩合(昭61-63年平均%)				紅変米率(%)上川農試病虫予察科			白米白度[5)](%)
	北見農試	上川農試	北農試	センター	昭61	昭62	昭63	
北育糯80号	1.3	21.6	7.3	10.5	0.42	0.21	0.50	48.5
おんねもち	4.7	38.2	14.0	17.2	2.58	1.75	1.70	47.1
たんねもち	5.5	34.1	15.8	15.7	0.92	0.31	0.45	46.9

表3　「北育糯80号」の食味官能試験(つきもちでの評価、基準「おんねもち」)

系統名 品種名	外観			粘り	こし	総合	試食 人数	試食 月日	生産年 場所
	白さ	光沢	きめ						
北育糯80号	0.67	1.22	0.78	1.78	1.38	1.33	9	昭63 1.12	昭62 端野町
たんねもち	0.67	1.22	0.88	1.63	0.56	1.00			
北育糯80号	0.41	0.30	0.36	0.61	1.36	0.44	33	昭63 11.14	昭63 北見農試
たんねもち	0.22	0.42	0.44	0.64	0.57	0.44			
北育糯80号	0.10	0.30	0.10	0.40	0.30	0.30	10	昭63 11.17	昭63 北見農試
たんねもち	-0.10	0.10	0.30	0.40	0.00	0.30			

---

1)紅変米：エピコッカム・プルプラセンスというカビにより玄米表面に紅色の斑点のできたもの農産物検査規格で混入率が0.7%を越えると規格外米とされる。
2)着色粒米：細菌、害虫、割籾などにより玄米表面に色のついた米。
3)成苗移植：機械移植を前提とし、育苗箱あたり乾籾35-50gを播種し、35-40日間育てた苗を移植すること。
4)中苗移植：機械移植を前提とし、育苗箱あたり乾籾60-100gを播種し、30-35日間育てた苗を移植すること。
5)白米白度：光の反射率を測定。数値の大きなものほど良い。

目次へ戻る